

総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラム開催報告

クラブフォーラム I N 伊豆の国 ~ 創ろう、わが街元気なクラブ ~

日時：平成 19 年 9 月 22 日（土）15:30～18:00

会場：静岡県伊豆の国市「葦山文化センター」大ホール

平成 17 年に伊豆長岡町、葦山町、大仁町の 3 町が合併して、新たに誕生した伊豆の国市において、総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラムが盛大に開催された。

厳しい残暑が続くのどかな田園風景は、頭を垂れた稲穂が辺り一面に広がり、秋の訪れもそう遠くないことを感じさせてくれた。157名の地域住民の方々をはじめ、伊豆の国市教育委員会、伊豆の国市体育協会、東海ブロック県体育協会担当者、及びクラブ育成アドバイザー、東海ブロック地方企画班等を合わせると、総勢182名の参加であった。

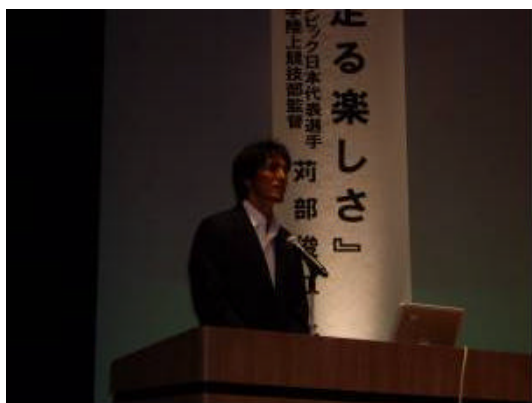
3 町が合併してできた伊豆の国市において、どのような総合型地域スポーツクラブが求められているのか探るべく、講演と事例発表が行われた。

最初に、元オリンピック日本代表選手であり、現在法政大学陸上競技部監督の苅部俊二氏から「走る楽しさ」と題して御講演いただき、その後、京都府にある財団法人長岡京市体育協会の立野誠次氏から「長岡京市における総合型クラブ育成の取組み」という内容で事例発表をしていただいた。

スポーツの魅力に触れ、「総合型地域スポーツクラブって何？」という疑問から「総合型クラブって、こんなことをするクラブだったのか。」「地域住民主体であんなこともできるのか。」という理解が得られ、住民の意識改革に一步近づいたと感じている。

1 講演 「走る楽しさ」

講演者 元オリンピック日本代表選手 法政大学陸上競技部監督 苅部俊二 氏



講演は、8月に大阪で開催された世界陸上の話題から始まった。日本人が活躍できなかった理由はどこにあるのかを問い、北京五輪に向けての課題を呈した。

前半は、苅部氏の陸上経歴の紹介。

小学校は、「走るのが大好き時代」だった。中学校では陸上競技部に所属したが、希望しない種目(長距離)をやることとなり「走るのが嫌い時代」になった。高校1年次はラグビー部に所属したが、ボール磨きが嫌で退部。その後、陸

上競技部に入部しトレーニングを開始するが、骨折。高校2年次から猛練習を開始した。「走ればいつもベスト」が出て、インターハイ8位の成績を残す。高校3年次には、「質より量」を重視し、とにかく人より多く練習した結果、インターハイ2位の成績を残す。

大学1年次は、毎日が飲み会で体重増加。コーチ不在のまま練習を行う。筋肉をつけることに目標をおき、大学2年次にインカレで優勝するが、その後肉離れに苦しむ。やはり、練習は「量より質」だと発想転換した。大学3、4年次にはスピード強化を図るため「量

より質」の練習に取り組み、世界陸上へ出場することができた。その後オリンピック出場を目指す、アキレス腱炎に悩まされ続けた。



社会人1年目(1992年)は暗黒時代で、オリンピックにも出場することができなかった。しかし、社会人2年目に「400mHでアジア初の48秒台」を記録し、見事復活した。その後は、気合、集中、丹田、古武道などを取り入れ、自分を追い込む精神時代を送った。その間コーチは不在で、他の選手から技を盗む時代を経て「経済走法(いかに手を抜いて速く走れるか)」を実践した。

社会人10年目(2001年)に、日本選手権出場を最後に引退しコーチの道を歩むことになり、現在に至る。

後半は、「走り」とは何かについて。

運動生理学的な側面(短距離走における速筋繊維と遅筋繊維の関係)から、身体運動力学的な側面(地面にいかに速く着地できるか、なんば的動作、2軸走法等)までをわかりやすく説明された。

最後に、現在、苅部氏ご自身が小学1年生～中学3年生までを指導している「陸上クラブチーム」について触れ、「走ることは様々なスポーツの基本である。総合型地域スポーツクラブから将来のトップアスリートが誕生することを期待する。」と締めくくった。

2 事例発表 「長岡京市における総合型クラブ育成の取り組み」

発表者 財団法人長岡京市体育協会 立野誠次 氏



まず、長岡京市について概要を説明され、その後、クラブ創りの経験を発表された。

農村型と都市型が混在する街。市内には10小学校、4中学がある。人口約79,000名。近くには、サントリーのビール工場がある。京都国体の際、バドミントンの競技会場となったことから、バドミントン及びファミリーバドミントンが普及している。

平成12年に(財)日本体育協会の育成モデル指定を受けて取り組んだことが、総合型地域スポーツクラブ創設のきっかけとなった。将来構想は、小学校エリアでのクラブ創設、中学校エリアへの統合。市内には、「長七みんなのスポーツクラブ」(長七小校区)、「ながよん地域文化・スポーツクラブ」(長四小校区)、「ふるさとスポーツクラブ」(長九小校区)がある。



クラブ創りには、先導的なスタッフが必要。熱意のある人を核に、自発的積極的な参加者に協力してもらい、自由な参加者に会員になってもらう形がよい。

総合型地域スポーツクラブを創設するためには、地域住民のスポーツニーズを把握することが大切。長岡京市では、平成13年に全市的なアンケート調査を実施した。(スポーツ実施率37.4%のうち、種目団体会員は8.6%、それ以外が28.8%。スポーツ嫌いや病気等でスポーツ

ができない人は20%、残りの42.6%が潜在的スポーツ欲求のある層であり、クラブ創りのターゲットになると考えた。

子ども期のスポーツを充実させることに着眼。競技スポーツや生涯スポーツの振興・普及に発展する。子ども期におけるスポーツとの出会いが大切。楽しいと記録も伸びる。

「クラブ創りは、できることから始めよう。」失敗したらやり直す。

「計画的に目標をもって取り組もう。」地域組織の協力が必要。住民の意識改革が必要。

「地域は人材(人的資源)の宝庫である。」いろいろな職業の方がいて特技を持っている。

「不安な気持ちより、まず行動から始めよう。」感情と行動の関係をコントロール。

(報告：東海ブロック地方企画班員 國川淳子)